

科目名	教育心理学			担当教員	蔵 冨 恵	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1EFE106
期待される学修成果	学校と社会 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な心理学的知識を習得し、子どもに対する理解を深め、教育・保育の現場での実践が行えるようになることが到達目標である。またあわせて、心理学的な人間観についても理解を深めることを目指す。講義のテーマとしては、人間の発達、学習、知的機能、動機づけ、学習指導法などを取り上げる。					
授業の概要	効果的な教育・保育を行うためには、教育の対象となる子どもを深く知り、教育の中で生じる心理学的な現象について理解する必要がある。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を中心に、教育に関する心理学的な諸問題について学ぶ。 【デジタル技術利用 該当番号：③、⑥】					

授業計画	
第1回	教育心理学とは
第2回	発達の理論
第3回	幼児期の発達
第4回	児童期の発達
第5回	青年期の発達
第6回	行動論から見た学習
第7回	情報処理論から見た学習
第8回	知能
第9回	動機づけ（1）達成動機づけ
第10回	動機づけ（2）外発的動機づけと内発的動機づけ
第11回	教授方法（1）主体的な学び
第12回	教授方法（2）個に応じた学習指導（発達障害など子どもの特徴をふまえた指導）
第13回	教授方法（3）協同学習
第14回	測定と評価
第15回	学級経営

事前学修	2時間	各回に対応するテキストの章を読み、疑問点をまとめてくること。
事後学修	2時間	授業内容とテキストを照らし合わせ、疑問がどのように解消されたかをまとめること。
フィードバックの方法	質問などは各授業終了後に受け付け、翌週にフィードバックを行う。また、メールでの質疑も随時受け付け、応答する機会を設ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	基本概念や研究成果の理解を問う問題を課す。
上記以外の試験・平常点評価	20%	毎回の課題に対する取り組みにより評価する。
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
主体的に学ぶ「発達と教育の心理学」	高村和代・安藤史高・小平英志（編）	ナカニシヤ出版	9784779516542	なし
参考資料	『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29 年 3 月告示、内閣府）、『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示,文部科学省）、『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示,文部科学省）、『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示,文部科学省）			

科目名	教育心理学			担当教員	安藤 史高	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1EFE106
期待される学修成果	学校と社会 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な心理学的知識を習得し、子どもに対する理解を深め、教育・保育の現場での実践が行えるようになることが到達目標である。またあわせて、心理学的な人間観についても理解を深めることを目指す。講義のテーマとしては、人間の発達、学習、動機づけ、学習指導法などを取り上げる。					
授業の概要	効果的な教育・保育を行うためには、教育の対象となる子どもを深く知り、教育の中で生じる心理学的な現象について理解する必要がある。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を中心に、教育に関する心理学的な諸問題について学ぶ。 【デジタル技術利用 該当番号：①，③，④】					

授業計画	
第1回	教育心理学とは
第2回	発達の理論
第3回	幼児期の発達
第4回	児童期の発達
第5回	青年期の発達
第6回	行動論から見た学習(1) 条件づけ・学修到達度確認試験（発達領域）
第7回	行動論から見た学習(2) 社会的学習
第8回	情報処理論から見た学習
第9回	動機づけ(1) 達成動機づけ
第10回	動機づけ(2) 外発的動機づけと内発的動機づけ
第11回	教授方法(1) 主体的な学び
第12回	教授方法(2) 個に応じた学習指導（発達障害など子どもの特徴をふまえた指導）
第13回	教授方法(3) 協同学習
第14回	測定と評価
第15回	授業内容の総括・学修到達度確認試験（学習領域）

事前学修	2時間	次回の授業範囲のテキストを読み、不明な点・疑問点を事前に提出する。
事後学修	2時間	授業内容とテキストを照らし合わせ、疑問がどのように解消されたかをまとめる。
フィードバックの方法	事前に提出されたテキストの不明な点・疑問点に対して授業内で回答する。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		0%	
上記以外の試験・平常点評価		30%	次回の授業範囲のテキストを読み、不明な点・疑問点を事前に提出する。
上記以外の試験・平常点評価		70%	授業内容の学修到達度を測る中間試験を2回行う。
補足事項			

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
主体的に学ぶ発達と教育の心理学	高村和代・安藤史高・小平英志（編著）	ナカニシヤ出版	9784779516542	なし
参考資料	『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29 年 3 月告示、内閣府） 『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示,文部科学省） 『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示,文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示,文部科学省）			